

ひがしへいくひとはひがしへい
き、にしへいくひとはにしへい
く。さんしろうは、そのまんな
かにたっていた。

「じぶんはどちらへいけばよい
のだろう。」

そうおもいながら、そらをみあ
げた。

なつめそつせき「さんしろう」「より